



タイトル Title	表6. 6県知事選挙（青森・群馬・埼玉・岩手・高知・熊本県）における漸進的無償化関連の公約一覧
著者 Author(s)	渡部, 昭男
掲載誌・巻号・ページ Citation	高等教育における経済的負担軽減及び修学支援に係る法・制度・行財政の日韓比較研究,:
刊行日 Issue date	2020-03
資源タイプ Resource Type	Research Paper / 研究報告書
版区分 Resource Version	author
権利 Rights	
DOI	
JaLDOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81011979

表6. 6県知事選挙（青森・群馬・埼玉・岩手・高知・熊本県）における漸進的無償化関連の公約一覧（2020.3.8作成）

	候補者氏名 *届出順 (所属等)	漸進的教育無償化・子育て・若者等に係る公約・マニフェスト等からの抜粋 * 漸進的教育無償化に直接触れた事項を 色文字&下線処理 (出典：ウェブにアップされた各候補者の「公約」等／それがなければ選挙管理委員会「選挙公報」で補足／2020.3.8閲覧)
青森県 @ 2 0 1 9 年 6 月 2 日 投票	佐原 若子 (無新)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全県で小学生の医療費無料化を実現し、高校生まで広げる道をつける。 ・ 子どもの貧困をなくす支援、児童育成手当条例など子育て対策を強める。 (出典：「政見放送」 https://wakako-yes.com/state/seikennhousou/ 、 「知事選立候補予定者の主な政策」 https://www.toonippo.co.jp/articles/gallery/190277?ph=1 青森県選挙管理委員会「青森県知事選挙選挙公報」 https://seijiyama.jp/pdf/koho/20190602_20001_1.pdf)
	三村 申吾 (無現)	1 誰もが健やかで安全、安心に暮らしていける、この国の“ゆりかご”あおもり ◇ 医療関係人財の確保と質の高い地域医療で命を守るあおもり ☆ 医師を育み、地域と医療を守るため、県内臨床研修医の毎年80名以上採用をめざします。 ・・・・中略 ◇ 子どもたちが将来に希望を持ち、健やかに成長できるあおもり ☆ 児童虐待防止に取り組む児童相談所の体制強化のため、国の配置基準以上の児童福祉司を配置します。 ・・・・中略 4 ふるさとを愛し、元気をつくる人財（たから）きらめくあおもり ◇ 地域に誇りと愛着を持ち、地域の未来を担う人財を育むあおもり ☆ 教育相談体制の充実のため、スクールカウンセラーを全公立小・中学校へ配置します。 ◇ 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばすことができるあおもり ◇ 障害のある児童生徒、困難を有する子どもや若者などを育むあおもり ◇ 地域を支える人財、世界へ打って出る人財を育てるあおもり ・・・・以下略 (出典：「確かな未来へ！－ステージアップあおもり－」 http://www.gogo-shingo.jp/pdf/2019seisaku.pdf)
群馬県 @ 2 0 1 9 年 7 月 21 日 投票	石田 清人 (無新)	学校給食費の無料化／全学年で30人学級実現／保育士の待遇と配置基準の改善 (出典：群馬県選挙管理委員会「群馬県知事選挙選挙公報」 https://www.pref.gunma.jp/contents/100116586.pdf)
	山本 一太 (無新)	2. 未来に向けた子育て環境の整備 ● 教育環境の改善等を通じ、子どもの基礎学力を向上 ● 地域社会全体での子育て応援体制を構築 ● 児童相談対応を充実し、児童虐待への対策を推進 ・・・・ 基本政策4. 子ども政策 73. 医療・住居・教育など、子育ての費用負担を軽減！ 135. 大学などと連携し、若者の地元定着を推進！ 136. 群馬で働く意欲を持った県外の方の就職を支援！ 例えば ・ 市町村と連携し、生活困窮世帯の学習支援を強化! ・ 小学校での少人数学級展開を支援し、子どもたちの学力を全国平均以上に! ・ 海外大キャンパス誘致や 留学助成 で高校生・大学生の国際感覚を育成! ・ 新規公共建設費の1%を芸術にあてる「 1% for art 」で文化を振興! (出典：「山本一太政策集」 https://ichita.com/pdf/Ichita_Yamamoto_Policy_0426.pdf)

埼玉県 @ 2019年8月25日投票	<p>大野 元裕 (無新)</p>	<p>② 結婚・出産・子育てしやすい埼玉へ 結婚を望むひとたちの希望が適う環境づくりと、子育て楽しい埼玉県へ向けたきめ細かい取組みを推進します。 具体政策 ○ 妊娠出産の正しい知識の普及につとめます。 <u>○ 県民の経済的自立を支えるため家賃補助等の導入を検討します。</u> ○ 子供の貧困対策計画を策定し、各種NPO 等とも連携しながら、PDCA サイクルに乗せていきます。 ○ 安心して子供が産める産婦人科医の確保につとめます。 ○ 妊産婦の孤立と不安を取り除く、産前産後ケアを充実させます。 ○ 県内市町村の「ネウボラ」施策の実効的な充実を支援します。 ○ 児童相談所と警察とが連携した児童虐待防止のための取組みを強化します。 ○ 相談件数の多いエリアでの児童相談所整備を進めます。 ○ 多様な保育サービスを提供し、待機児童ゼロを目指す自治体の取組みを支援します。 ○ 病児保育所の整備促進を図るとともに、保育園で子供の具合が悪くなくても迎えに行けない時に備えた病児保育施設への送迎システムを、モデル事業を通じて推進します。 ○ 駅前から保育施設へのバスでの送迎など先進的な取組みを積極的に自治体へと情報提供を行います。 ○ 過密な特別支援学校の環境改善に取組みます。 ○ ワーク・ライフ・バランスの実現へ向けた取組みを強化します。</p> <p>④ 次世代を担う子供たちを育成する埼玉へ 変化の激しい時代、自らの力で生き抜く力を育み、真の国際人を育成する埼玉を目指します。また、様々な困難を抱える子供に寄り添い、自身の可能性を育む教育を行います。 具体政策 ○ 主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を推進します。 ○ AIでは対応できない想像力をはぐくむ教育、社会性を養う教育を推進します ○ 人口減少社会へ向けた県立高等学校の適正化と特色ある学校づくりをすすめます。 <u>○ 安心して大学へ進学できる奨学金制度の拡充を検討します。</u> ○ 真の国際人育成を目指し、海外への留学を支援する仕組みを検討します。 ○ 実践的なキャリア教育を推進します。 ○ いじめ、不登校、引きこもりへの支援を充実させると同時に、ライフスキル教育を推進します。 ○ インターネット広告を活用した自殺総合対策をはじめ、インターネット社会に合わせた県民との交流、相談体制を作っていきます。SNS などを通しての相談体制を構築します。 ○ 若者のボランティア活動を積極的に支援します。 ○ 子供たちの安全確保のため、地域による見守りに加え、IC タグ等、新技術も活用して事故を未然に防ぐ対策を検討します。 ○ 障害を持つ子供たちを受け入れる学級を増加させます。 ○ ITやAI、データ産業等の人材育成を積極的に支援します。 ○ 民間活力を県の行政に活かすべく、世代ごとの意見を反映できる仕組みを設け、埼玉民活プラットフォーム事業を立ち上げます。 ○ 不妊治療助成の拡大を検討します。 (出典：「日本一暮らしやすい埼玉を実現する政策集2019」 https://oonomotohiro.jp/wp/wp-content/uploads/2019/08/20190807_oonosaitama.pdf)</p>
	<p>武田 信弘 (無新)</p>	<p>関連事項は特になし (出典：埼玉県選挙管理委員会「埼玉県知事選挙公報」 https://www.pref.saitama.lg.jp/e1701/documents/chijikouhou.pdf)</p>
	<p>浜田 聡 (N党・新)</p>	<p>・疾患予防、医療コスト削減につながる予防接種について啓発することで、県民の皆様の健康向上に貢献します。 (出典：埼玉県選挙管理委員会「埼玉県知事選挙公報」 https://www.pref.saitama.lg.jp/e1701/documents/chijikouhou.pdf)</p>
	<p>櫻井志津江 (無新)</p>	<p><u>・子ども手当など子育て世代にかかる児童手当への増額支給。</u> (出典：埼玉県選挙管理委員会「埼玉県知事選挙公報」 https://www.pref.saitama.lg.jp/e1701/documents/chijikouhou.pdf)</p>

	青島 健太 (無新)	<p>子供たちの明るい将来を最優先で考える県政実現に全力投球！ 保育所の待機児童「ゼロ」、<u>医療と教育の無償化はもちろん</u>、児童虐待は絶対許せません。 子供たちの明るい将来を最優先で考える教育環境日本一をめざします。 (出典：「青島けんたの政策」http://aoshima-kenta.jp/full_power) ~~~~</p> <p>4. 子供たちの明るい将来の為に、どのようなことを考えていますか 子供たちが健やかに育つには、子供を育てる環境を整えることも必要だと考えています。保育所の待機児童ゼロ対策の強化と保育の質の向上を図ります。また、保育に従事する職員の人材確保に向けた処遇改善策を実施していきます。更に、幼稚園における「預かり保育」制度の充実等を図ることで、子育て環境の改善・支援策を講じていきます。 <u>私立高等学校の父母負担軽減事業の強化等による教育の支援、ひとり親家庭の親の就業支援等による保護者に対する支援などの施策に取り組みます。</u> 更に、授業の質の向上を図るため、教員研修を充実していきます。 子供の将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図ります。 (出典：「青島健太の考え方」http://aoshima-kenta.jp/archives/1038)</p>
岩手県 @ 2019年9月8日投票	達増 拓也 (無現)	<p>3. <幸福度の向上—いわて幸せ大作戦> 10の政策分野 (①健康・余暇、②家族・子育て、③教育、④居住環境・コミュニティ⑤、安全、⑥仕事・収入、⑦歴史・文化、⑧自然環境、⑨社会基盤、⑩参画) ごとに幸福関連指標を定め、団体、企業、個人の参画を得ながら、県民及び岩手に関わる全ての人の幸福度を向上。 <u>* 子どもの医療費の窓口無料化(現物給付)を中学校卒業時まで拡大します。</u> * 中学生の部活動及びそれ以外のスポーツ・文化活動に関する調査を行い、生徒本位の有意義な活動を目指します。 * 子どもの貧困調査に基づき、対策を講じます。 * ヘルプマークの普及、まちづくりユニバーサルデザインガイドラインの改定で、共生社会の実現を進めます。 (出典：「希望マニフェスト2019-2023 幸福を守り育てる希望郷いわて—復興と地域振興—」 https://ameblo.jp/tassotakuya/entry-12505235094.html)</p>
	及川 敦 (無新)	<p>6つの重点政策 4 少子高齢社会への対応 ○医師確保・地域偏在の解消 ○結婚サポートセンターのスタッフ増員とAI 導入による機能強化 ○結婚サポーター制度の導入 ○第3子出産祝い金の創設 <u>○子どもの医療費助成を高校卒業まで拡充</u> ○保育士・介護士等の県独自の処遇改善制度の創設、保育士修学資金貸付募集定員の大幅拡大 ○高齢者の免許返納後の支援制度の創設</p> <p>5 教育改革 ○高校再編の在り方を見直し、地域に貢献する特色ある学校づくり ○特別支援学校のスクールバスの運行 ○児童相談所の環境整備と相談体制の充実 (出典：「おいかわ敦の政策」http://a-oikawa.jp/#sec_policy)</p>

松本 顕治
(無新)

④ 本気の子育て応援をすすめます

市町村ですすめられている子ども医療費助成制度の拡充を応援するために、子ども医療費助成の拡充、妊産婦医療費助成の創設など、子育てを応援する施策を県としても取り組みます。子どもの数が増えると国保料が高くなる均等割を改めるために、各自治体とともに、子どもの均等割減免制度を創設するなど、安心して子どもを産み育てられる環境を県として整えます。

子育てしやすい高知県にするためには、親の経済的負担を軽減することが決定的です。県として、子どもの歯科矯正への補助、途中入所で発生する待機児童の解消、保育副食費負担の軽減、0歳から2歳までの保育料減免の拡充、教材費の負担軽減、県独自の給付型奨学金制度の創設など、子育て世代のニーズに敏感に応えた施策をすすめます。公立認可保育の増設をはかります。

男性が育児休暇のとれる環境を整えます。

・・・

⑤ 子どもを中心にした教育改革をすすめます

「地域づくりは人づくり」を基本に、教育に必要なお金をかけ、子どもたちの教育を受ける権利を保障します。AIにはできない、子どもの「不思議だな」「もっと知りたいな」という思いを大切にできる教育環境、自分の思いや意見を言葉にできる力を持てるような環境を整えます。全ての子どもが基礎的な学力をつけられる環境は何より大切です。学力テストの点数対策に追われる教育ではなく、子どもたちの疑問や知りたい思いに寄り添える時間的、人力的余裕のある学校現場づくりをすすめます。

県版学力テストは廃止し、必要な教育条件整備に予算をまわします。年間63億円も税金をつかっている全国学力調査を抽出式に変えることを国に働きかけます。

教育改革の鍵は、現場の教職員を増やすことです。しかし、教員定数通りの正職員の配置もできていません。県独自の少人数学級もこの10年間前進していません。先生を増やして教員の教材研究時間の確保など教育力向上をめざします。学校現場の対応力を抜本的に増すことがいじめや不登校への最大の対策になります。子どもの一人ひとりの発達を保障し、高知の未来をつくりだす教育改革をすすめます。教育現場への1年単位変形労働時間導入は認めません。

特別支援学校の現場では、増築や分校設置をしても、大幅な児童生徒増に追い付かず、過密化が進んでいます。高知市内に100人規模の寄宿舎付きの学校をつくり、どの子も自分らしく発達できる教育現場をつくります。同時に「インクルーシブ教育」もすすめ、障害や個性に対する理解を教育の場からすすめます。

学校統廃合押し付けをやめ、小規模校への支援を抜本的に強めます。地域づくり、防災拠点として学校を位置づけます。義務教育の給食費無償化をめざします。

(出典：「ここでいっしょに生きよう。だれ一人取り残さない高知県政へ 松本けんじの決意」

https://withyourvoice.exblog.jp/fp/2019_governor_policy/)

<p>日 投 票</p>	<p>③教育の充実と子育て支援</p> <p>これまでの知・徳・体の分野毎に目標を掲げた取り組みをさらに強化するとともに、科学技術の進展に応じた教育内容の革新を図ることなどにより、本県の子どもたちが急速に変化する現代社会にも対応できるよう、知・徳・体の調和のとれた”生きる力”を育みます。</p> <p>(1)学校が組織として課題に対応し、自律的に教育の質を高めていくことができる「チーム学校」の構築の一層の推進</p> <p><u>(2)就学前から高等学校までの各段階において、貧困や不登校、学力の未定着など、多様な課題を抱える厳しい環境にある子どもたちへの切れ目のない支援の充実</u></p> <p>(3)社会全体で子どもを育むために学校・家庭・地域の連携・協働を推進</p> <p>(4)防災教育・健康教育の充実、社会教育施設・団体や大学・民間企業との連携、中学校夜間学級の整備等、生涯学び続けられる安全・安心な教育環境づくりの推進</p> <p>(5)子どもと向き合う時間の確保・長時間勤務の解消に向けた教職員の働き方改革の推進</p> <p>・・・</p> <p>⑦少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大</p> <p>「若者達の希望を叶え、若返る高知県」を目指して、若い世代の「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の希望を叶えるよう努力するとともに、女性の活躍の場を拡大します。</p> <p>(1)支援を希望する独身者の出会いの機会を拡充し、結婚への支援を展開</p> <p><u>(2)妊娠前から子育て期まで切れ目なく子育てを家庭的に支援する「高知版ネウボラ」を推進</u></p> <p>(3)ファミリーサポートセンターの充実など地域における子育て支援を推進</p> <p>(4)育児に関する休暇等を取りやすい環境づくりを推進し、仕事と育児の両立を応援</p> <p>(5)女性のライフステージや個々のニーズに応じた就労支援を強化</p> <p>(6)官民協働により、少子化対策を県民運動として推進</p> <p>(出典：「浜田の政策 共感と前進の政策」https://hamadaseiji.jp/hamadaseiji_seisaku.pdf)</p> <hr/> <p>幸山ロジック 3 おもしろくてタメになる熊本型教育</p> <p># 地域との連携強化で教育現場をサポート 新学習指導要領全般、特に情報化、国際化に関するカリキュラムに対応するため、地元大学生など学外人材によるプログラミング教育、語学教育のサポート体制等を整備します。</p> <p># 課題解決型教育への対応 子どもたちがふるさとへの愛着を育む教育に力を入れ、地域課題について子どもものごとから向き合い解決手段を探る人材を育てます。</p> <p># 地域人材によるスクールスタッフの充実 複雑で多様化している学校現場や部活動の指導など、教員の長時間勤務に対する負担軽減に向けた働き方改革の実践と、地域人材による充実を図ります。</p> <p># 教員育成と教育力の向上 若手教員の育成、教員研修の充実 と、ICTを活用した遠隔授業の推進など教育力の向上を図ります。</p> <p># 県立高校再編整備の検証 「県立高等学校再編整備等基本計画」が地域に及ぼした影響を検証し、県立高校の今後の地域におけるあり方を検討します。</p> <p># 県立高校に「おもたメ学科」設置 特色を生かし、全国から若者が集まるおもしろくてタメになる魅力ある新学科やコースを設置、地域課題を解決するため、地域と学校が共同で人材育成と就労までの包括的施策を展開することで、若者の流入促進を目指します。</p> <p>・・・</p> <p>幸山ロジック 5 産み育てたい！暮らしたい！を実現 人口減に歯止めを</p> <p>出生数アップ／子育て世帯支援</p> <p>[産み育てやすく働きやすく]</p> <p><u># 現在、熊本県の子ども医療費助成は全国最低水準。各市町村によっては独自の追加策を講じており、県の助成を拡充することで県全体としての子育て支援を強化します。</u></p> <p># 受け入れ可否を含め、市町村域を超えた保育園等の最新情報を共有・公開。産後の入園をスムーズに。</p>
----------------------	--

幸山 政史
(無新)

「自宅まで送迎」「休日預かり」など新たな形態の保育園等の検討・設置促進。病児・病後児保育施設の充実を図り、子育て世帯が働きやすく。

企業のテレワーク制度立ち上げなど、子育て世帯の就業形態多様化を支援。

さまざまな悩みを持つことが多い子育て世帯をサポートするため、仲間と出会える地域子育て支援拠点の整備を進めます。

産前・産後の継続的な支援体制整備や、待機児童ゼロの実現に向けた保育施設の拡充、保育士の処遇改善を行うなど、安心して産み育てることができる環境を整備します。

市町村における、あらゆる子育て支援制度を総点検。地域特性に配慮をしつつ必要に応じた見直しを促進。県全体として底上げを図ります。

若者の県外流出を抑える

[学べる場を充実]

全国から大学のサテライトキャンパスを誘致。通学+本校スクーリング等を絡めた教育環境を充実。

地元の各大学や専門学校等と協力し、卒業後の地元就業を見据えた教育体制の改革を促進。

自動運転やスマート農業など“新分野”を専門的に学べる場を整備。

[働く場を充実]

県が投資をし、県内市町村の特色を生かした新たな雇用をともなう収益事業を創生。(再掲)

働く場を確保するため企業誘致活動に力を入れると同時に、大都市圏に集中している開発や研究職など、職種と業務内容を意識した誘致活動を展開します。(再掲)

[賃金を高く]

全国最低レベルの賃金を福岡並みやそれ以上に。県は事業者の負担軽減と経営効率化を支援し賃金アップを下支えします。

Uターン・定住者数を増やす

[きっかけを増やす]

移住は観光の延長線上という考えのもと、地域の特色や暮らしを知ることのできる各施策を実施。

熊本との関わりを大切にする「熊本ファン」とのつながりを維持・強化する仕組みを整え、リピート観光、関係人口の拡大、移住定住促進につなげます。

熊本の暮らしや仕事について、地域で活躍している人や移住者による情報発信を充実。地域の魅力的な情報を広げてもらい、移住定住を働きかけます。

子どもを対象とした宿泊や国内留学の体験、休暇を活用した短期間の移住体験など、地域の良さを実感できる取り組みを行います。

地元の各高校、大学、専門学校等の同窓会ルートを活用し、卒業生に対する情報提供等を実施します。

[不安を取り除く]

空き家などを活用した“お試し住まい”や、県下全域を網羅する空き家バンク制度を整備。

Uターン後の地元就業を円滑にするための、リカレント教育環境を整備。再就職候補と教育内容のすり合わせ。

「仕事があれば地元に戻る」を実現するため、仕事マッチング事業を継続的に展開。既存事業の強化。

(出典：「公約」https://www.kohyama-office.com/pledge/pdf/pledge_20200221.pdf)

約束④「夢」を育む教育を推進!

次世代を担う教育の充実

[ICTなどを活用したきめ細かな教育による学力の向上]

○ ICT教育日本一を目指し、市町村とともに児童生徒1人にパソコン1台を整備し、子どもたち一人ひとりの習熟度に応じた最適な学びを提供します。

○ 少人数学級や小学校における教科担任制の充実を図り、子どもたちへのきめ細かな指導を実施します。

○ 県内のどの地域の学校でも同様の学習環境が得られるよう、ICT環境の整備や遠隔授業等の先進的な取組みを市町村と協力して推進します。

○ 子どもたちの学力向上のため、県学力・学習状況調査やICTの活用、スーパーティーチャーの拡充等による教員のスキルアップにより、「熊本の学び」を推進します。

○ 子どもたちの伝統・文化への理解を促し、郷土への誇りや家庭を大切にすることを育むため、「熊本の心」を活用した教育の充実を図ります。

○ 授業や校務のICT化や、スクールカウンセラー、スクールロイヤー（※）等の外部人材の活用により、働き方改革を推進し、教職員が子どもたちと向き合う時間を確保します。

※ スクールロイヤー・・・学校で発生するいじめや体罰、不登校など様々な問題について法律の見地から学校に助言する弁護士

[海外に通用するグローバルな人材を育成]

○ ALT（英語指導助手）や小学校への英語専科教員の配置拡充、英語の外部検定試験受験料の支援に加え、本県独自のデジタル教材の開発、オンラインを活用した英語教育の充実、「国際バカロレア認定校（※）」や本県独自の「スーパー指定校」の導入に取り組み、英語教育日本一を目指します。

※ 国際バカロレア認定校・・・国際バカロレア機構（非営利団体 本部ジュネーブ）の認定を受けた学校。多様な文化の理解等を通じた、国際的かつ探求心に富んだ若者の育成を目的とし、国際的な大学入学資格が取得可能

○ 世界に通用するグローバル人材を育成するため、熊本時習館海外チャレンジ塾やパスポートの取得費用の助成等により、若者の海外進学などの夢が実現できるようなチャンスの舞台を拡大します。

[魅力にあふれ、地域に開かれた学校づくり]

○ 「魅力化」をキーワードに、特色ある学科の創設・改編、ICTの活用による遠隔授業の導入、スーパーティーチャーやALTの積極的な活用により、生徒から選ばれ、地方創生の核となる、魅力あふれる県立高校づくりを進めます。

○ 地域に開かれた教育課程の編成やコミュニティスクールの導入など、地域との協働による学校づくりを推進します。

[貧困の連鎖を教育で断つ、子どもの居場所づくりの推進]

○ ひとり親世帯や生活困窮世帯の子どもたちなどが夢を実現するため、地域の学習教室（愛称：カバークラス）等を拡充します。

○ フリースクールをはじめ、子ども食堂や地域や縁がわなど、子どもの居場所づくりや多様な学び・成長の場づくりを県下全域に広めます。

[キャリア教育を推進し若者の地元定着を促進]

○ 県内就職率の向上のため、高校における県内経済団体や大学との連携を強化し、キャリアサポーター（※）を活用した県内の就職に向けた支援やインターンシップの積極的な実施など、キャリア教育を推進します。また、専門性を有し、県内企業や地域社会で活躍できる人材の育成に取り組みます。

※ キャリアサポーター・・・企業勤務経験者等を雇用し、高校生の就職支援、社会生活への円滑な移行、就職後の早期離職防止等について支援を行うもの

○ ブライト企業制度やよかボス企業の取組みを引き続き積極的に周知・拡大を図ることなどにより、県内企業の魅力を高めるとともに、都会と比べて可処分所得が実質的に大きい、「熊本ライフのすばらしさ」を発信します。また、県内企業の福利厚生改善や採用活動の支援を行い、若者の地元定着を推進します。

~~~~

蒲山 郁夫  
(無現)



約束⑤県民の安全・安心な暮らしを創生!

子どもと子育てにやさしい社会づくり

[子どもを安心して産み、育てられる熊本を創造]

- 子どもを安心して産み、育てられるよう、多子世帯の負担軽減、在宅育児への支援を含めた少子化総合対策交付金の拡充や放課後児童クラブへの支援強化など、出会いから結婚、出産、子育てまで切れ目のない支援を充実します。
- 社員の仕事や結婚、子育てなどを応援する「よかボス企業」や、いきいきと安心して働き続けられる「ブライト企業」を認定し、社会全体での結婚や子育ての気運醸成を図ります。
- 2019年度に本格的運用をスタートした「聞きなっせA I くまもとの子育て」の充実を図り、誰もが安心して子育てできる熊本を目指します。
- 県全体で安心して出産・子育てに取り組める環境や機運づくりを行うため、県の率先垂範行動として、男性職員の育休取得率100%を目指します。
- 全国に先駆けて制定した「くまもと家庭教育支援条例」に基づき、「親の学び」講座をはじめ、県民みんなで子どもたちが心豊かに育つ環境づくりを推進します。

[子どもの安全・安心を確保]

- 子どもの安全・安心を高めるため、児童福祉司の増加や一時保護専用施設（開放型）の新設など、児童相談所の体制を強化します。併せて里親のリクルートや研修を行うフォスタリング機関（※）を県内に2ヶ所、児童家庭支援センターを新たに6ヶ所設置するなど、子どもを社会で守り育てる体制を構築します。
- ※ フォスタリング機関・・・里親養育を包括的に支援する機関
- いじめのない学校づくりに向けて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの拡充など、相談・支援体制の充実を図り、いじめの未然防止や早期解消に取り組みます。